

岡山大学 埋蔵文化財調査研究センター報 第24号

2000年9月 発行

岡山大学
埋蔵文化財調査研究センター

〒700-8530

岡山市津島中3丁目1番1号

TEL・FAX (086) 251-7290

ホームページ: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/le/arc/archome.html/>



「遺跡保護区」設定による構内遺跡の保存

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 津島キャンパス東北隅の縄文・弥生時代遺跡 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

このたび、岡山大学構内遺跡の一部が「遺跡保護区」として保存されることになりました。津島キャンパス東北隅に位置する津島岡大遺跡の一画です。

本学では、1981年にはじめて構内遺跡が発見されて以来、建設工事のたびに事前の発掘調査を行っています。発掘は2000年度で35カ所に達します。発掘調査の進展にともない、津島・鹿田キャンパスにおける遺跡の重要性が明らかになってきているのですが、これまで発見された遺構は、調査後、ほぼすべて消滅しています。

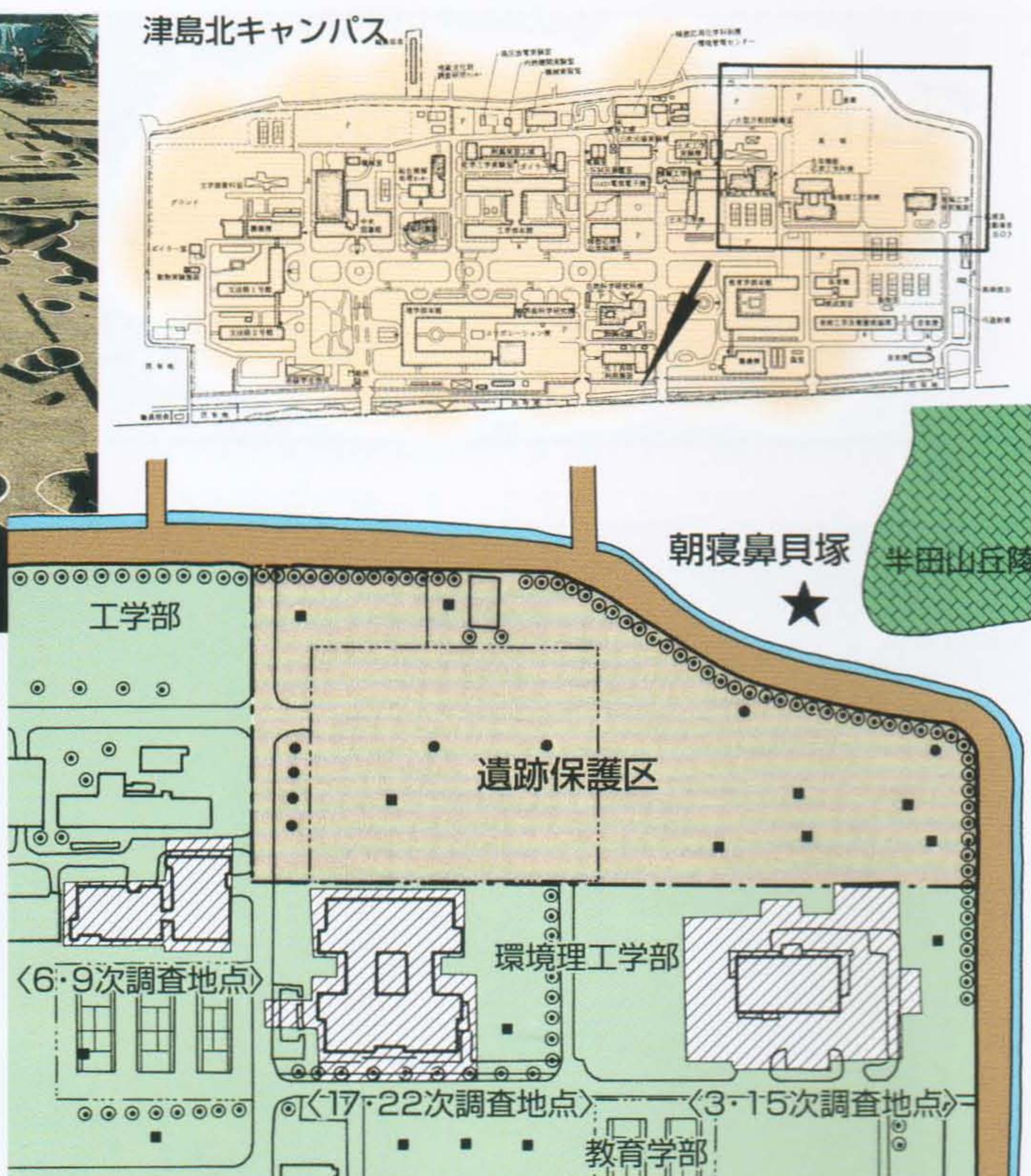
本学構内における施設建設と遺跡保護の両立をはかる新たな試みとして、1999年9月29日、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会は、津島地区東北隅地域に「遺跡保護区」（約17,000㎡）を設けることを決定しました。周辺の調査結果からみて、この区域には特に重要な遺構が埋もれていると予想されるわけです。今後の建物建設計画からあらかじめこの範囲を除外しておき、将来的には遺跡公園のような整備を行って教育・研究に活用し、また地域の生涯学習の場としても親しまれる場にしていこうというものです。この方針は、1999年12月22日の施設設定委員会でも承認され、本学の「施設長期計画配置図」に遺跡保護区の範囲が明記されることとなりました。

（センター長 稲田孝司）



1. 微高地上の遺構群
2. 住居の跡

津島北キャンパス



黒印：試掘・立会調査地点



3. 貯蔵穴調査中 4. 川辺に並ぶ貯蔵穴群

保護区の遺跡が大切なわけ

津島地区東北隅地域を保護区にした理由は、大きく二点あげられます。

一点は、縄文人の生活の跡が濃密に残されている点です。縄文時代の遺跡は弥生時代以降に比べるとかなり少数です。ましてや、多量の土器や石器が出土し、それに加えて、土地の高い場所（微高地）に住居や炉を含む遺構群が広がり、水辺に食べ物を蓄えた穴を作るといふ、具体的な集落構造がわかる遺跡は、西日本では数えるほどです。当時の生活を復原する上で大変貴重な遺跡なのです。また、朝寝鼻貝塚では、縄文前期にさかのぼる遺物とともにイネの化石（プラントオパール）が発見され、農耕があったのではないかという議論がでています（岡山理科大学が調査）。本学構内遺跡とは一つのまとまりの中にある地点であり、構内遺跡の重要性はさらに高まっています。

二点目は、その初現期から明治時代に至るまで、連綿と続く水田関連遺構が残っている点です。弥生時代に始まる水田経営は、各時代の社会的な経済基盤となっていくため、その変遷を解明することは重要な課題であり、そのためには、こうした継続性のなかでの理解が必要となります。（山本悦世）

学界が注目しているって!!

津島岡大遺跡 縄文人の生活は？

津島キャンパスには、縄文時代中期から現代に至るまでの歴史が残されています。

ここでは、当時の生活道具・装身具、そして食べ物などを紹介しましょう。



土器

深鉢：煮炊きに使用され、外面が煤で覆われています。

浅鉢：外面に描かれた文様から、他地域との交流がうかがわれます。



装身具

木製の竖櫛：鮮やかな朱塗り
土製の耳飾り：ベンガラで赤く塗る
石製の指輪：青緑色の光沢をはなつ



石器

多様な食生活がみてとれます。

石鎌：狩猟具 石錘：漁労具

スクレイパー：加工具

叩き石・石鍬：植物食関連道具



食べ物

食料を貯蔵した径1m前後の穴（貯蔵穴）からは、アラカシやイチイガシ、トチの実が大量に見つかります。

秋の特別展示期間の御案内

センター内の展示室で秋の特別展示を行います。岡山大学構内に残された、縄文時代から室町時代までの様々な遺物や遺構が見学できます。気軽に、お立ち寄り下さい。随時、専門職員が説明します。

期間：2000年10月16日～31日(日曜日除く)

時間：9時～16時(土曜日は10～15時)

最近の調査から

津島岡大遺跡第23次調査（総合研究棟）

縄文～弥生時代の水辺遺構出現！！

調査は2000年2月から開始しており、7月に終了しました。これまではほとんど調査されていない文・法・経済学部棟南側の地点の調査であり、今回は重要なデータを得ることができました。

主な調査成果としては弥生時代前期（日本における水稻農耕開始期）に築かれた堰と導水路が挙げられます。調査区の中央には北東から南西に流れる自然河道が通っていますが、堰は河道に直交して水流をせき止めるかたちで築かれています。この堰の西側、川がわずかに屈曲する部分の斜面に取水口を設けた幅約5mもの導水路を掘削し、微高地上に水を引いています。屈曲する部分に取水口を設けることで堰に対する水压を減少させたと考えられ、農耕開始期における水田経営技術の高さをうかがわせます。

また、堰と取水口の間で完形の壺が1個出土しました。これは祭祀に供されたものと考えられますが、福岡市板付遺跡で同様の例が見られます。このことは水稻農耕技術のみならず、思想面でも影響を受け



堰の検出作業：木をいためないように足場を組んで作業しているところ

たものであることを示すものといえるでしょう。

さらに、下層の調査では縄文時代後期の河道を利用している状況がわかりました。河道に直交して倒れている大木の周辺に打ち込んだ杭や、河道の縁辺に沿って密に打ち込んだ杭列を確認しています。周辺からは板材や加工を施した丸太材なども出土しています。これらの杭群の機能や性格については、全国的にも類似した例が少なく、不明な点が多いのですが、川を渡るための橋としての利用、魚を獲るための仕掛け、川岸の護岸施設といったように、縄文人たちが様々な目的で川を利用した痕跡であろうと考えています。（野崎貴博）

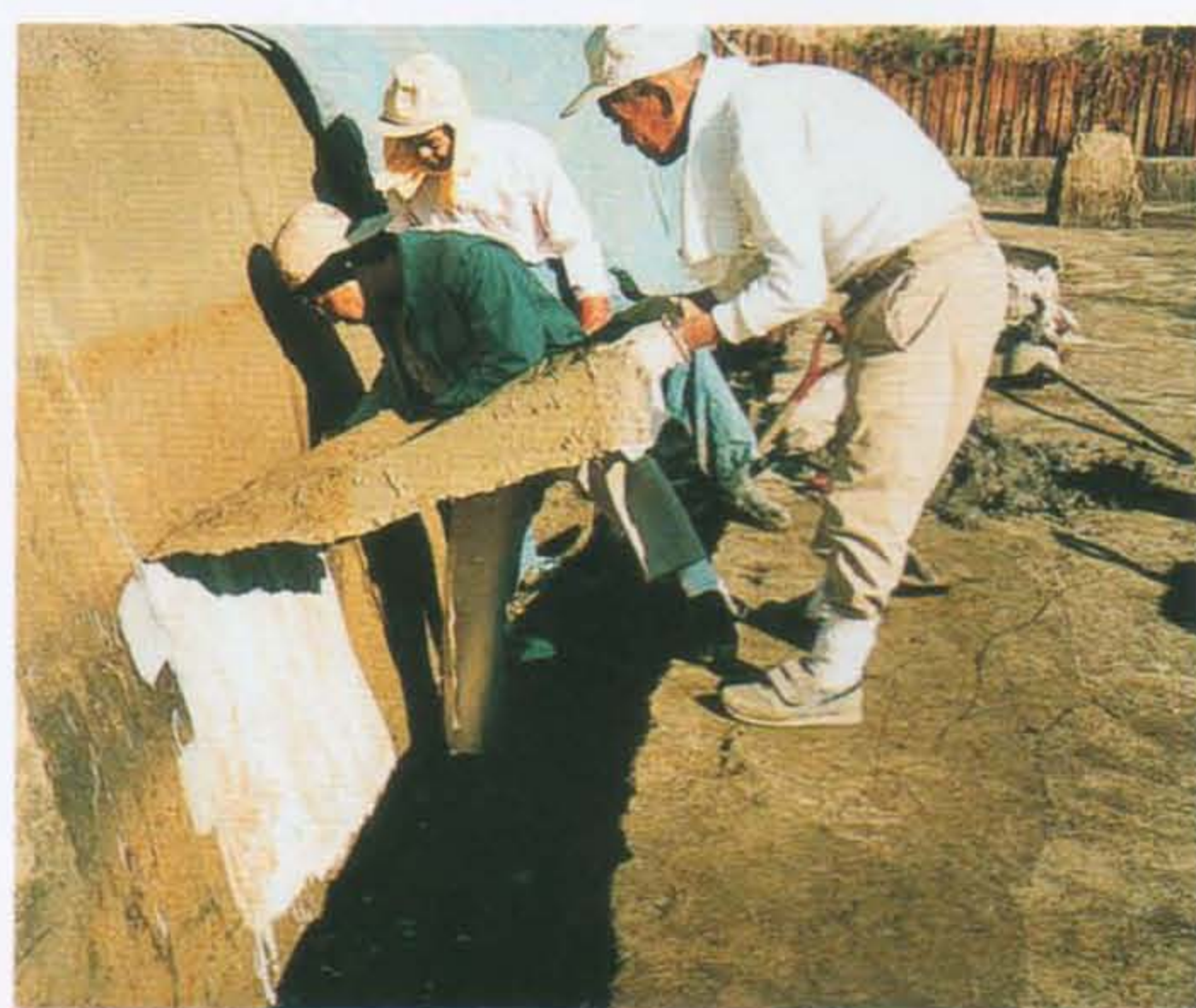
さまざまな保存方法

土層のはぎ取り

各時代の土地利用を反映した土は、色や質にそれぞれの顔をもった土の層となって、姿を現します。発掘調査はこの土層の違いを手がかりに進めていきます。土には、時期の違いや当時の環境などを復元するために必要な多くの情報が含まれているのです。右の写真では、土層の保存のために、土を樹脂で固め、表面を薄くはぎ取る作業を行っています。

遺構の切り取り

遺構は、現地でそのまま保存するほかに、遺跡が破壊される場合、切り取って持ち帰ることがあります。炉跡などは被熱によって土が硬化しているため、切り取りが比較的容易で、本センターでも縄文時代や古代の炉を保存し、いつでも見学できるようにしています。



編集後記

念願の遺跡保存区の設置決定。多くの方々のご理解のおかげです。少し埋蔵文化財も市民権を得たような気がします。これからも、調査成果の利活用も進めていきたいと思っていますので、よろしく！（山本）